

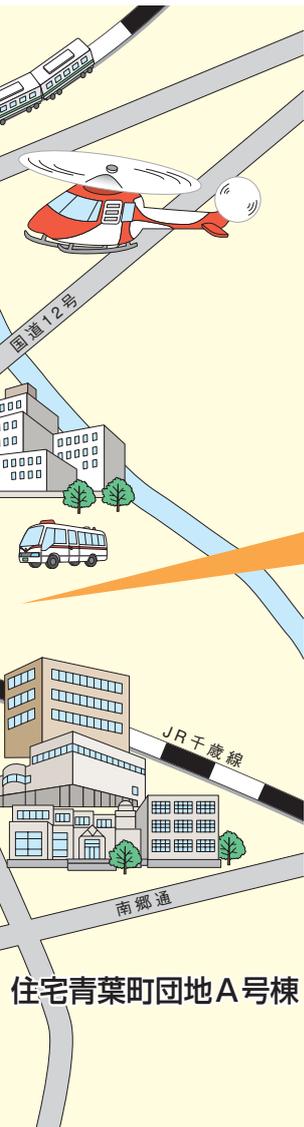
# 大災害を防ぐ

～そのために、今できること～

大きな被害をもたらした阪神・淡路大震災は、私たちに自然災害の恐ろしさをあらためて実感させるとともに、防災活動の貴重な教訓を残しました。地震などの自然災害は予測することが難しく、突然やって来ます。そのとき、一人ひとりが落ち着いて適切な行動を取り、互いに協力し合うことで、多くの命を助け、被害を最小限に食い止めることができます。そのためには、防災に関する知識を持つ、防災訓練を繰り返し行うなど、日ごろから家庭や地域などで備えることが大切です。



昨年の区防災訓練



## 守れ！副都心

副都心地区には、JＲや地下鉄の駅、デパート、ホテル、事務所など大勢の人が訪れる施設が集中しています。もし、このような場所ので地震が起こると、大規模火災が発生したり、人々が恐怖や不安に駆られて出入り口に殺到したりするなど、大災害につながる恐れがあります。

これらを防ぐために、多くの人を収容する建物では、防火管理者を定めて、自主的に防火管理を行うことになっていきます。ダイエー新さっぽろ店の防火管理について伺いました。「年二回の総合防災訓練のほかに、毎月十一日を防火の日として、テーマを決めた講習や訓練を行っています。また、倒れやすい商品などは避難通



訓練を通して災害時の行動を確認します

路の近くに置かない。災害時には、休憩中の従業員も含め、全員が売り場に出て避難誘導に当たる。お客さまの安全を第一に考えて、特にこの二点を全従業員に徹底させています」と副支配人の三宅義司さんが答えてくれました。

さらに、新さっぽろ駅周辺の商業施設などでは、災害の発生を協力して防ぐため、共同防火管理協議会を設けています。各防火管理者のほかに統括防火管理者を選任して、一体的な防火管理が行われています。

## 外出先で地震に遭ったら

### 屋外では

窓ガラスや看板などの落下物に注意して、バッグなどで頭を守り、安全な所に避難します。ブロック塀や自動販売機などの倒れそうなものや、垂れ下がった電線には近寄らないようにしましょう。

### デパートや地下街では

商品やつり看板などが落ちてくる危険があるので、持ち物などで頭を保護し柱のそばで身を守ります。慌てずに店員や係員の指示に従いましょう。避難するときに、エレベーターを使つてはいけません。**電車や地下鉄、バスでは**急停車することがあるので、常につり革などにしっかりとつかまり、荷物棚からの落下物に注意します。乗務員の指示に従って冷静に行動しましょう。

